

組織の枠超え 研修旅行を実施 「かくれ念仏」の み跡を訪ねる

山口教区門徒推進員連絡協議会第5ブロック（豊浦・下関・豊田・小月の4組）は、研修旅行「かくれ念仏巡拝の旅」を実践運動の一環として実施し、熊本・宮崎に残る念仏弾圧・ご法義相続の旧跡を訪ねました。隔年で行うこの研修旅行は、門徒推進員だけでなく広く参加者を募っており、今回も仏婦や仏社会員、総代会、僧侶など41人が参加しました。

山口教区門徒推進員連絡協議会



今回の「かくれ念仏巡拝の旅」は、一昨年の鹿児島に続いて2回目となりました。最初に熊本県人吉市の人吉別院にお参りし、室町時代中期に始まった相良藩による360年もの念仏禁制のお話を聞きました。特に、仏飯講を組織して信仰をまもり抜いて殉教した「山田村の伝助さん」のお話は、参加者全員の心に強く刻まれました。

翌日は、宮崎県都城市の正定寺を訪れ、命がけで布教を行った本山からの使僧・釈無涯のお話を聞きました。その後、同市・安楽寺に参拝し、念仏弾圧の取り調べに使われたという「拷問石」を見て驚きました。続いて的野拷問処刑場跡や田島かくれ念仏洞を訪ねました。

最終日の3日目は、熊本県水俣市の源光寺に参拝。本堂の下でかくれて聞

法したという4畳ほどの「薩摩部屋」は、今でこそ光が入りますが、当時は真っ暗であり、命がけで真剣に聴聞された先人たちの思いが伝わってくるようでした。

研修を終えた門徒推進員の後醍醐院サト子さんは「私自身、おみのりを中心にした日暮らしの中で、すべて阿弥陀さまに『おまかせの身』と信じていたのですが、先人のご苦勞を知り、横着な勘違いをしていたのではと目覚めさせていただきました」と話しました。

また、仏婦会員の山野陽子さんは「あの時代に命をかけて浄土真宗の信仰をまもった方々が、今の時代を見たら何と思われるでしょうか。私はただただ、ナモアミダブツとお念仏申すしかない自分自身に気づかされました」と感想を語りました。



本堂の下にかくれて聞法したという「薩摩部屋」にお参りした参加者＝熊本県水俣市・源光寺